

最良のパートナーと描く インド事業の未来

2016年にベトナムでの事業を開始し、その後日越間の事業を着実に拡大してきた関彰商事が、次の進出国として選択したのは、経済発展の著しいインド。2022年、オンラインによるジョブマッチングイベント開催を契機に、2023年にはアミティ大学内に日本企業からの問い合わせに対応する窓口となる「ジャパンデスク」を開設。そして、今年の2月に合同企業説明会・面接会『SEKISHO JOB FAIR in India 2024』を現地にて開催した。

「未来を見据え、パートナーシップは不可欠」と語る関彰商事の関正樹社長と、アミティ大学のアトゥル・チョーハン学長の対談を通して、同社のインド事業、そしてインド市場の魅力を掘り下げていく。

※2024年2月、インド・アミティ大学にて対談を実施

関 正樹

関彰商事株式会社 代表取締役社長

アトゥル学長 関社長に初めてお会いした時、昔から知っている間柄のような印象を受けたことを鮮明に覚えています。

と交流を図っていた中でアミティ大学と接点を持ちました。大学の理念や教育方針などに感銘を受けたことにも、インドでは全く無名の関彰商事の提案に対して真剣に耳を傾けてくださるアミティ大学の姿勢に、是非ともパートナーとして連携が出来なにかと思ひ、昨年9月にアトゥル学長を訪問したことがここに至ったきっかけです。



アトゥル・チョーハン

アミティ大学学長

関社長 2018年にインドへ訪問する機会に恵まれました。その際にネルー大学の日本語学科を訪れたところ、とても優秀で熱意を持って学んでいる学生達と交流をしました。そのうちの一人がここにいるサケバ・エシユナさんです。彼女から日本に対する強い想いと、将来のビジョンに関する話を聞き、ぜひとも一緒に働きたいと思い、2019年に入社して頂きました。



ジャパンデスク運営に関する覚書を交わす(2023年9月)

世界で活躍する人材の育成に向けた懸け橋となる

も間違いなく減っていきます。そうすると、外国籍の方と一緒に働くことが当たり前になりつつあります。持続可能な会社とは、様々な価値観を持った集団だと思っています。関彰商事においても国籍の違う方が入社することで、多様な価値観に触れる機会が増え、社員にとって良い刺激になると思っています。これから私たちは今までの「売る会社」から「考える会社」にならなくてはならない。だからこそ多様な価値観を持つ人材が集まることで、今後には必要だと思っています。そして、この考えの延長がジョブフェアに繋がっているわけです。



多くの学生が訪れたジョブフェアの会場

アトゥル学長 アミティ大学が世界を開く理由は、多様性のある社会において活躍できる人材を育てることにあります。一人ひとりが個性を生かすためには、世界中の人と一緒に学ばないといけないこともあるため、海外にキャンパスを作りました。学生が様々な国の人や文化と接することで、より魅力的な人間性を探求することが大事だと思っています。アミティ大学の一番の強みは、こうした国際交流です。今回のジョブフェアは、日本で働きたいと希望を持つインドの学生にとっては、懸け橋となる非常に貴重な機会だと捉えています。

今後このパートナーシップをどのように展開されていくのか。双方の未来像をお聞かせください

アトゥル学長 確かに、インドでは「お客様は神様」のように接する文化があると思います。ただ、日本でも友情や人間関係を築くために、似たようなおもてなしの文化をお持ちなのではないでしょうか。それを関社長からも強く感じます。

関社長 今初めてインドでジョブフェアを開催するにあたり不安はありました。しかし、今後の展開を考える上での心配はまったくありません。当然、その都度、問題に直面するでしょう。しかし、その時々で誠意を持って解決していく。それをしっかりと守っていけば10年20年と続いていくのだと思います。国籍の違う多様な価値観を持った人同士が交流する中で、考えの相違などが起こるのは当然のことです。だから、起きたらどうしようではなく、起こると思って常日頃から真摯に話し合うことが大切だと考えています。今日こうしてアトゥル学長と良いコミュニケーションが図れたことは、今後のために非常に貴重な機会になったと思っています。そして関彰商事もアミティ大学と共に成長していきたいと思っています。

関彰商事は今年で創業116年を迎えました。組織を継続させていくために必要なことは何でしょうか

関社長 継続させているために仕事をしているというわけではなく結果的に会社が116年続いたと思っています。我々がやるべきことを社員に伝え、それをみんなが共有して真面目にやり続けていく。それによりお客様から信用を得ることで、自然に会社が続くのではないのでしょうか。余談ではありますが、昨年の創業記念日である2月6日に、社員が身体的、精神的、社会的に満たされた状態で仕事に向き合える会社を目指すという決意のもと「ウェルビーイングカンパニー宣言」をしました。

アトゥル学長 良好な関係性を構築するにはコミュニケーションの質が重要だという意見に賛成です。私たちが共に協力すれば、苦難があつたとしても乗り越えていけると考えます。アミティ大学はパートナーとして出来る限りの協力・支援をしていきます。そしてこの取り組みが、未来の若者にとって、さらには両国にとって大きな希望になることを確信しています。このパートナーシップが、10年後振り返った時に、さらに深化し素晴らしい結果を出しているのではないかと個人的に楽しみにしています。



アミティ大学 ノイダキャンパス

アトゥル学長 関社長の話聞いていて、関彰商事が116年も続いている理由がよく分かりました。100年以上も生き残れる会社は、世界でもほとんどありません。どのように社員を扱うのかは組織にとって重要なことです。私どもの学生もそこから大いに学ぶことができると思います。それと、2月6日は私にとっても忘れられない日です。私の結婚記念日ですから(笑)。

本日は、ありがとうございました。

将来の多様な人材活用に向けて共に成長

